学校評価シート

東海市立大田小学校

住　　所　　東海市大田町細田２３番地
電話番号　　０５６２（３２）６２７２　　児童/生徒　５１７名
校 長 名　　明　壁　啓　純　　２３学級　（内　特支５）

○教育目標　・仲良く　明るく　元気よく

○地域の特色　・大田町、木田町、中央町の三町内会に分かれるもののコミュニティを基盤にまとまりがあり、学校にも協力的である。

資料等

中期目標	今年度の目標	評価方法（アンケート項目）	結果の分析 A:良い結果　B:やや課題あり　C:課題あり	課題と対応策	学校関係者評価 【実施日】令和８年２月６日	来年度の改善策 （誰が何をどうする）	
知	①基礎基本の確実な定着と活用 ・「分かる・できる・知る喜び」が味わえる授業づくり	・児童2「授業は楽しい」 ・児童3「わかりやすい授業をしてくれる」 ・児童4「先生の話をしっかり聞いている」 ・保護者2「学校は、わかりやすい授業をしている」 ・保護者3「学校は学力の向上に努めている」	(評価B)「よくあてはまる」「ややあてはまる」と回答した人は、児童3は89.6%、児童4は86.4%、保護者2は77.0%、保護者3は75.5%であり、すべての設問で昨年度より低下している。	＜授業づくり＞ 教員の教材研究や研修参加が進み、授業改善への取組は高まっている。しかし、児童・保護者の授業評価は低下傾向にあり、努力が十分に実感へ結びついていない。児童の声を踏まえた授業改善を進め、わかりやすく学びやすい授業づくりをさらに推進していく。 ＜学習基盤の確立＞ 家庭学習への意識は児童で向上が見られる一方、保護者の実感との間に差が生じている。保護者自身が自身の小学生のときと比べて少ないと感じていることが考えられる。家庭学習の方法や目的をより丁寧に共有し、家庭との連携を強めていく。	・先生方の授業改善の努力が、子どもたち自身の成長実感として届くことを期待している。 ・自分の小学生時代より家庭学習は減ったと感じるが、受験制度の変化やクラブ・塾など学校外活動の多様化を考えると、単純に増やせない事情もある。 ・無理に家庭学習を課すと問題視される現状の中で、教師は工夫しながら取り組んでいると思う。 ・「多様化」により教師が対応すべき範囲は広がり、求められる役割も増えている。	・授業改善の努力を児童の実感につなげるためには、まず教員が児童の声を継続的に収集して、達成感が得られる授業作りを目指す。 ・管理職は教員の教材研究や研修参加を支援し、成果を共有する場を設けて組織的な授業改善を促す。 ・家庭学習については、学年・学級担任が家庭と丁寧に目的や方法を共有し、保護者の不安や疑問を受け止めながら連携を強める必要がある。多様化する学校外活動や家庭事情を踏まえ、無理のない学習習慣づくりを学校全体で協議し、共通理解のもとで進めていく。	
	②学習基盤の確立 ・学習環境整備（学習規律の定着と家庭学習の習慣化）	・児童8「忘れ物をしていない」 ・児童9「家庭学習をしっかり行っている」 ・保護者17「家庭学習の習慣が身についている」	(評価B)「よくあてはまる」「ややあてはまる」と回答した人は、児童8は77.9%、児童9が93.9%と昨年度より微増しており、家庭での学習の重要性を意識した取組の成果が表れている。一方で、保護者17が67.7%となっている。昨年度に比べ低下している。				
	③現職教育・研修会の充実と教師個々の資質向上、授業力向上	・教員2「教材研究に努め、わかる授業を実践している」 ・教員3「研修会等に参加するなど、力量向上に努めている」 ・教員4「基礎学力の定着を意識している」	(評価A)「よくあてはまる」「ややあてはまる」と回答した人は、教員2は97.4%、3は92.1%、4は97.4%である。昨年度と比べかなり上昇している。				
徳	①あいさつと規範意識の向上	・児童12「毎朝、大きな声であいさつをしている」 ・保護者16「家庭や地域の方にあいさつをしている」 ・地域3「子どもたちは地域の方にあいさつができている」 ・児童15「きまりを守って学校生活をしている」 ・児童16「掃除や係活動をしっかり行っている」	(評価A)「よくあてはまる」「ややあてはまる」と回答した人は、あいさつでは児童72.2%、保護者73.5%、地域68.2%である。昨年度に比べ、児童、保護者は微増である。一方で、地域は78.2%で大幅に上昇している。 児童の規範意識は高く、数値も児童15は92.5%、児童16は91.5%と昨年度と同じか若干低下しているものの、高めである。	＜あいさつの励行＞ 児童の取組は広がっているが、全員が安定して実践できているわけではない。PTAや児童会を中心に活動を進め、地域・保護者と連携したあいさつ運動を継続する。 ＜読書活動の充実＞ アンケート上は低下しているが図書館利用をする児童は多い。今後もより多くの児童が読書に触れられるよう、図書委員会の活動や読み聞かせなどを継続し、読書への関心を高める環境を整える。 ＜道徳教育の推進＞ 道徳教育への学校の取組は保護者にも理解されている。「考え、議論する道徳」を重視した授業を継続し、参観や評価を通して家庭との連携を深め、豊かな心の育成につなげる。	・人として大切な価値観や善悪の判断は、本来家庭で育まれるべきものだが、十分に果たされていない場面もある。子どもの心の成長は家庭だけに任せるのではなく、学校にも見守ってほしいという思いがある。 ・教師の質ばかりが話題になるが、親の姿勢にも課題があり、学校を託児所のように扱っているのではないかと感じることもある。本来、基本的なしつけや生活習慣の指導は家庭の責任である。しかし現状を踏まえると、学校も学問だけでなく道徳教育により積極的に取り組み、子どもが社会で生きるための心の基盤を育てる役割を担う必要があると考えている。 ・あいさつについては教員が指導をしていることもあり、下校時等、積極的にあいさつをしてくれる児童が多い。今後もあいさつ運動を継続して欲しい。	・学校では、教職員が中心となってあいさつ運動や読書活動を継続し、児童会・図書委員会と連携して児童自身が主体的に関われる場を広げていく。 ・読書の充実については、これまでどおり、読書機会を増やすために、読書週間の取組や、読書講演会の開催、読書ボランティアによる読み聞かせなどを継続していく。 ・道徳教育では、道徳推進教師を中心に、考え、議論する道徳科の授業を行い、道徳実践力の向上に努める。	
	②体験活動と読書活動を重視し、豊かな情操を培う。	・児童11「読書をすることが好きである」 ・保護者18「子どもは、本を読む習慣が身についている」	(評価B)「よくあてはまる」「ややあてはまる」と回答した人は、児童は70.3%で昨年度より若干低下しているものの、年度によって上下している。保護者49.8%と昨年度よりさらに低下している。家庭での状況と学校での状況に大きな開きがある。				
	③道徳教育の推進	・保護者4「学校は、道徳や体験活動などを通して、豊かな心を育てようとしている」	(評価A)「よくあてはまる」「ややあてはまる」と回答した人は、保護者4は83.6%である。昨年度より微減ではあるが、例年と大きな差はない。				
体	①基本的生活習慣の定着	・児童18「早寝、早起きができている」 ・児童19「毎朝、朝ごはんを食べてきている」 ・児童20「毎食後、歯みがきをしている」	(評価A)「よくあてはまる」「ややあてはまる」と回答した人は、児童18は75.0%、児童19は95.2%、児童20は95.8%で、昨年度に比べ、すべての項目で微増している。	＜基本的生活習慣の定着＞ 朝食や歯みがきなどの生活習慣は定着しているが、早寝・早起きは改善の余地がある。今後も学校保健委員会やさわやかカードを活用し、家庭と連携しながら生活リズムの確立に向けた啓発を続けていく。 ＜危機対応能力の向上＞ 児童・保護者とも安全意識は高いが、地震・津波対応の理解がわずかに低下した。過去の事例を踏まえて訓練内容を見直し、より実践的な安全指導を継続していく。 ＜運動に親しむ機会の確保＞ 外遊びをする児童は増加したが、まだ十分とは言えない。活動可能な時間には外遊びを促し、児童会や委員会と協力して運動の楽しさを広げる取組を進めていく。	・中学校の部活動が縮小される中で、子どもたちの体力低下が心配される。学校単位での活動が減ることで、地域クラブへの参加のハードルが上がり、運動に触れる機会が減ってしまう可能性がある。 ・小学生のうちにさまざまな競技を体験し、興味をもつきっかけを作ることがこれまで以上に重要になる。興味をもてる競技が見つかれば、地域クラブへの参加にもつながりやすい。 ・ようやく体育館に空調が整備され、授業や大放課で安心して運動できる環境が整いつつある。近年の夏の厳しい暑さを考えると、この改善は大きな前進であり、子どもたちが安全に運動できることに安堵している。	・生活習慣ノ課題については、保護者懇談会等をとおして、家庭と教師とが共通理解を図り、同一歩調で改善に努める。 ・教職員は学校保健委員会やさわやかカードを活用し、家庭と連携して早寝・早起きの定着を促すこと、地震・津波対応の訓練内容を見直し、実践的な安全教育を継続していく。 ・体育館に空調が整備されたことから、体育科での運動量を確保することはもちろん、児童会や委員会など、児童の主体的活動により運動に親しむ機会を増やしていく。	
	②安全への意識を高める。	・児童21「いつも交通安全に気を付けている」 ・児童22「地震や津波が起きたらどうしたらよいかわかっている」 ・保護者7「非常時の対応など、安全指導をしっかり行っている」	(評価A)「よくあてはまる」「ややあてはまる」と回答した人は、児童21は97.8%、児童22は92.1%、保護者7は82.2%であり、昨年度と比べ、児童21は微増、22は微減で、保護者7は微増であるが、保護者は年々増加している。				
	③心と体の健全育成を図る。	・児童17「大放課には元気に外で遊んでいる」 ・保護者5「学校は、心と体の健康づくりに向けた取り組みをしっかりしている」	(評価B)「よくあてはまる」「ややあてはまる」と回答した人は、保護者5は73.3%で、昨年度より低下している。 体力づくりについては、児童17で50.4%と昨年度より大幅に増加している。				
地域連携	①学校支援協議会を通して、教育的人材による支援体制を整備する。	□学校支援ボランティアについて ・保護者12「学校支援ボランティアの参加・協力で、教育活動や環境整備が充実してきている」 ・地域10「学校支援ボランティアに参加したいと思っている」	(評価B)「よくあてはまる」「ややあてはまる」と回答した人は、保護者12は、66.5%で、昨年度よりかなり低下している。地域10は、57.9%で大幅に上昇している。地域の方が参加できる支援ボランティアに参加している人は実際に増えている。	＜支援協議会活動の充実＞ 地域の参加意欲は高まっている。また実際参加する人も多い。一方で、保護者はボランティアへの意識は低い。今後もブログ等で学校の取組を発信し、地域と保護者が参加しやすい支援体制の充実を進めていく。 ＜地域行事への積極的参加＞ 児童と保護者の地域行事への参加意識には差がある。児童は授業でも地域とのつながりはあるので、その活動の様子を学校ニュースやブログで積極的に発信し、家庭と地域のつながりを深める取組を進めていく。	・保護者の活動参加意識を高めることが重要である。児童数の増加により、保護者同士のつながりが希薄になり、地域活動への参加が減少していると考えられる。 ・近年は全国で大きな地震が増えており、防災意識の向上が求められる。避難訓練は学校内だけで完結するものではなく、災害はいつどこで起こるか分からない。 ・小学校周辺には保育園や福祉施設もあり、地域住民と連携した避難経路の確認や合同訓練が必要である。こうした取り組みが、保護者の地域参加の促進にもつながるだろう。	・学校はPTAや学校支援協議会の活動を保護者・地域に更に発信し、ボランティア等での活動参加意識を高めていく。 ・担任や担当教員は、児童の地域活動の様子を積極的に紹介し、家庭とのつながりを深める役割を担う。 ・学校での活動の様子は、学校ニュースやブログを活用し、伝えていく取組を今後も継続し、家庭や地域とのつながりを深めていく。	
		□地域との連携について ・児童23「地域の行事に参加している」 ・保護者19「地域の行事に積極的に参加させている」 ・地域1「大田小学校はよい学校だと思う」 ・地域4「学校は、地域の活動や行事によく協力している」	(評価B)「よくあてはまる」「ややあてはまる」と回答した人は、児童23は78.7%、保護者19は49.6%、地域4は71.7%で、昨年度から児童は変化はなく、保護者は減少している。しかし、地域は大幅に上昇している。 地域1は、72.5%で、昨年度より上昇している。				